

## 実物要因が為替レートとインフレ率に与える影響の国際比較

祝迫得夫（一橋大学経済研究所）

円のドルに対する減価が相対的に大きいのは事実だが、現在進行しているのは「円安」ではなく、「ドル高」と世界的なインフレの同時進行である。金融政策の動向や各国のスタンスの違い、商品価格の変動が大きな役割を果たしているのは間違いないが、本報告ではこれらの要因に加え、コロナ対策による港湾利用制限の違いが海運貨物に与える影響や、コロナ前の労働市場の状況の違いが各国のインフレ率に与えている影響について考察する。